

平成30年度 社会福祉法人いいたて福社会事業報告書

1. 基本方針

法改正や、人材不足等による財政関係は、当会の経営等において大きな影響をもたらしているものの、社会福祉事業（地域福祉）を行うことの意義を理解し、地域と共に快適に過ごせる場の提供の継続と、将来への安心感に繋がるサービスを提供していくため、法人役員として定期的な理事会及び評議員会、監事会を開催し、様々な課題や問題に取り組んできた。

次年度も人員確保のため、PR活動の推進や住居（社宅）の環境整備等に力を入れて行く。

2. 事業内容

- ・理事会、評議員会、監事会、評議員選任・解任委員会の開催状況
理事会年5回、評議員会年1回、監事会年1回開催。

(1) 理事会の開催状況（理事定数6人、監事2人）

回数	開催日	出席（人）		内 容
		理事	監事	
第1回	平成30年 5月7日	5	2	報告第1号 平成29年度第5回理事会議事録の確認について 報告第2号 諸事業報告 議案第1号 社会福祉法人いいたて福社会評議員候補者の推薦について 議案第2号 社会福祉法人いいたて福社会評議員選任・解任委員の招集について 議案第3号 福祉サービスに関する苦情解決体制に関する第三者委員の選任について
第2回	5月24日	6	1	報告第1号 平成30年度第1回理事会議事録の確認について 報告第2号 諸事業報告 議案第1号 平成29年度社会福祉法人いいたて福社会事業報告について 議案第2号 平成29年度社会福祉法人いいたて福社会一般会計収支決算について 議案第3号 社会福祉充実残額の算定結果について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福社会理事候補者の推薦について 議案第5号 社会福祉法人いいたて福社会評議員の招集について 議案第6号 社会福祉法人いいたて福社会定款の一部変更について 議案第7号 社会福祉法人いいたて福社会やまゆり保育所処務管理規程の廃止について 議案第8号 社会福祉法人いいたて福社会文書規程の一部変更について 議案第9号 社会福祉法人いいたて福社会印章取扱規程の一部変更について 議案第10号 社会福祉法人いいたて福社会防火管理規程の一部変更について 議案第11号 社会福祉法人いいたて福社会に就業する職員の就業時間等に関する細則の一部変更について 議案第12号 社会福祉法人いいたて福社会給与規則の一部変更について 議案第13号 社会福祉法人いいたて福社会に対する被服の支給等に関する規程の一部変更について 議案第14号 やまゆり保育所延長保育実施要綱の廃止について 議案第15号 特別養護老人ホームいいたてホーム職員宿舍修繕工事請負契約について
第3回	9月4日	5	2	報告第1号 平成30年度第2回理事会議事録の確認について 報告第2号 諸事業報告 議案第1号 平成30年度特別養護老人ホームいいたてホーム拠点区分会計補正予算について 議案第2号 職員のメンタルヘルスについて

第4回	平成31年 1月28日	6	2	報告第1号 平成30年度第3回理事会議事録の確認について 報告第2号 諸事業報告 議案第1号 平成30年度特別養護老人ホームいいたてホーム拠点区分会計補正予算について 議案第2号 社会福祉法人いいたて福祉会経理規程の一部変更について 議案第3号 老人福祉法に基づく特別養護老人ホーム休止認可申請について
第5回	3月28日	6	2	報告第1号 平成30年度第4回理事会議事録の確認について 報告第2号 諸事業報告 議案第1号 2019年度社会福祉法人いいたて福祉会事業計画(案)について 議案第2号 2019年度社会福祉法人いいたて福祉会一般会計収支予算(案)について 議案第3号 特別養護老人ホームいいたてホーム設備機器保守点検委託契約について 議案第4号 いいたてホーム送迎車両購入契約の締結について

(2) 評議員会の開催状況(定数7人)

回数	開催日	出席(人)		内 容
		評議員	監事	
定時	平成30年 6月14日	6	2	報告第1号 平成29年度臨時評議員会議事録の確認について 議案第1号 平成29年度社会福祉法人いいたて福祉会事業報告について 議案第2号 平成29年度社会福祉法人いいたて福祉会一般会計収支決算について 議案第3号 社会福祉充実残額の算定結果について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福祉会理事の選任について 議案第5号 社会福祉法人いいたて福祉会定款の一部変更について

(3) 監事会の開催状況(監事定数2人)

開催日	出席(人)	内 容
平成30年 5月18日	監事 2名	平成29年度社会福祉法人いいたて福祉会事業報告について 平成29年度社会福祉法人いいたて福祉会一般会計収支決算について 理事会及び評議員会について

(4) 評議員選任・解任委員会の開催状況(定数3人)

開催日	出席(人)	内 容
平成30年 5月18日	3名	議案第1号 社会福祉法人いいたて福祉会評議員の選任について

・役員研修等

- 関係機関が主催する役員研修会に参加(平成30年度研修一覧参照)
- 県等主催の役員研修に参加(平成30年度研修一覧参照)

平成 30 年度 特別養護老人ホームいいたてホーム事業報告書

1. 基本方針について

利用者の生活環境を第一と考え、必要としているケアを、必要な時に提供ができるよう努めてきました。（利用者に寄り添い、普段から業務優先とならないよう、「利用者優先」に心掛けてきました。）

また、ユニット方式を取り入れながら、医療・栄養・介護の連携を大切に、ホームの生活が、家庭での生活環境に近付け、看取りのステージを迎えた時も、決して諦めないケアに努めてきました。

【月別入居者数】

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入居者数				2				4	1			
退去者数		1				2			2	1	1	
入居者数	39	38	38	40	40	38	38	42	41	40	39	39

【要介護度状況】

要介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
男性	0	0	0	1	3
女性	0	0	7	11	17
比率(%)	0	0	17.9	30.8	51.3

2. 具体的な取り組み内容

(1) 重度化ケアのとりくみ

住み慣れた環境、顔馴染みの職員と、そして家族との関係を大切にしてきました。

そして、心身の状態と残された機能、メンタル面のケアを重視し、その人らしい生活を送られるようにしてきました。

また、認知症ケアでは、年々加齢と共に認知症状の進行が見られる中、家庭的な雰囲気の中で、生活習慣となっていることが継続できるように、意思表示や言動に耳を傾け、寄り添い、理解を深めながらケアに努めてきました。

(2) 職員一人ひとりの意識を高めていく

職員が、各委員会に所属し、専門性を深め意識を高められるようにしてきました。

① 食事・口腔ケア委員会

- ・ 口腔ケアの取り組み（口腔ケア用品の見直し、口腔内のアセスメント等）
- ・ 食前体操（パタカラ体操の継続への声かけ）
- ・ 食事形態と食器の見直し（厨房職員も同委員会に出席することで、食事提供の情報交換ができた。）
- ・ 行事食への取り組み（年間行事のメニューについての検討）

② 排泄・褥瘡対策委員会

- ・ 排泄環境と排泄用品の見直し（パット見直し時は、排尿量等を1週間測定し、その人に合ったパットの選定に取り組む） → 排泄用品使用削減へも繋がる。

- ・ 褥瘡対策（安楽なポジショニングの勉強）理学療法士・作業療法士を講師に迎え、個々に合ったポジショニングを勉強。

③ 入浴委員会

- ・ 「お風呂の日」を設け、季節を感じ楽しんで頂いた。
（6月菖蒲湯、紫陽花 11月 ゆず風呂 2月雪見風呂（雪だるま））
- ・ 今年は、ホーム大入浴を開放、普段個浴利用者を銭湯気分が入浴が出来るようにした。
湯上りには、雰囲気（こあがりの）を設定し、ビールやおでん等を準備しゆっくり休んで頂いた。
- ・ 入浴介助マニュアルの見直し
- ・ 浴室環境整備（富士山の貼り絵をつくり浴室に飾ることが出来た。）

④ ケアプラン委員会

- ・ ケアプランの理解（ケアマネジャーのみならず、職員がケアプランを学んだ。）
- ・ ケアマネジメント（利用者の理解を深めるため、各ケアチェック等を担当に。）
- ・ ケア会議の充実（会議前に利用者の状況を把握し、ケア見直しの視点を共有）
- ・ にやり・ほっとシート（ヒヤリハットの考え方を「出来ない」から「出来る」へ、視野を広げる意識づけに取り組んできた。）
- ・ ユニットケア見直しのため、24Hシートの活用へ取り組んだ。（24Hシートを一覧化へ、居室へ掲示、必要な時に見る。）

⑤ 家長会議

各家（ユニット）の家長が、各家で抱えている問題を共有しつつ、改善できるよう定期的に開催してきました。今年度も、百歳賀寿祝い等の行事もあり、事前準備や当日の余興への協力依頼もしてきた。

今年から、ミニデイサービスを、東棟を利用し、元気な利用者を対象に開催しました。普段とは違った雰囲気となることから、昼食は“自分で調理し食べましょう”を目標に、包丁で野菜を切ったり、小麦粉をこねたり、ご飯を潰したり等、昔ながらの手つきでした。

また、一緒に行くことで会話も弾み、リフレッシュにも繋がることから、張り合いにも繋がると考え、次年度も継続して行きたいと思えます。

⑥ 行事

高齢化と重度化しても、楽しめる行事や季節が感じられるような行事に取り組んできました。

<平成30年度主な行事内容>

月日	主 な 内 容	
4.12	買い物外出	お買い物希望者を対象に川俣方面（掛田屋、百円ダイソー）へ、衣類やお菓子等の買い物に出掛けました。思い思いの事が出来とても満足していました。 （参加者：ご利用者4名）
4.14	花見ドライブ	大雷神社と伊丹沢の復興桜を見てきました。また、利用者の自宅周辺もドライブ、とても懐かしそうに眺めていました。 （参加者：ご利用者9名）
4.29	家族会総会 花見昼食会	22家族（26名）の出席があり、総会后、各家で利用者・ご家族・職員と交流。また、厨房手作りの花見弁当で和やかに過ごしました。 （各家 全員参加）
5.4	大雷神社遷宮 祭に参加	遷宮祭参加希望者14名が行列見学。踊り等を目の前で披露して頂いたり、踊り子と懐かしい会話を楽しんだりと地域交流を深めることができました。

5.13	母の日	午後のティータイムの時間に、母の日のお祝いに手作りのフォトフレームをプレゼントしました。 (西棟ホール 全員参加)
5.25	までのりの里のこども園との交流	こども園園児が、散歩方々ホームに立ち寄りて頂きました。ホールで走り回る子供たちの姿は微笑ましく、ずっと見ていたい様子でした。 (西棟ホール 12名)
6.7	外食ドライブ	せせらぎの家の利用者が、月館「花工房」に昼食を兼ねて出掛け、綺麗な花や景色、好きな料理を各々注文して食すなど、リフレッシュに繋がったことと思います。 (参加者：ご利用者8名)
6.16	外食ドライブ	だんらんの家の利用者が、月館「花工房」に昼食を兼ねて出掛け、綺麗な花や景色、好きな料理を各々注文して食すなど、季節等を満喫していました。 (参加者：ご利用者6名)
6.18	外食ドライブ	西棟から参加希望者を募り、月館「花工房」に昼食を兼ねて出掛け、綺麗な花や景色、好きな料理を各々注文して食すなど、大いに盛り上がっていました。 (参加者：ご利用者10名)
6.21	ミニデイ (第1回)	いつもと違った生活、楽しみや刺激、日常生活の活性化を図ることを目的に、希望者を募り、東棟(ゆとり)にて、いつもとは違うメンバーで、いつもと違った共同作業や活動を通し、一日楽しく過ごして頂きました。 (※初めての試み 登録者13名)
7.5	ミニデイ (第2回)	2回目のミニデイとあって、皆が慣れてきて、自分達で作った昼食後は、広い部屋で思いおもいに好きなように昼寝を楽しむなど、とても満足していたようで、「次は何時だ」と早くも楽しみにしているようです。 (参加者：13名)
7.8	七夕昼食会	西棟ホールで昼食会を行う。今年は流しそうめん、上手くとらえることができるか心配でしたが、そこには笑いあり、苦闘ありでしたが、皆さん笑顔で美味しく頬張っていました。(参加者：全員参加)
7.19	ミニデイ (第3回)	3回目のミニデイ、今回は調理(焼き物)に力を入れ、一生懸命下処理から調理まで行いました。自分達で作ったものが美味しいのか、普段よりも多くおかわりをしていました。(参加者：13名)
8.5	夏まつり	震災後、8年振りに外で実施。模擬店や盆踊り、花火等を皆で楽しむことができました。ご家族の方から「楽しかった」や「とても美味しかった」「来年も楽しみにしています」等のお言葉を頂き、職員共々大満足でした。 (参加者：ご家族37名)
9.16	ホーム敬老会	西棟ホールで敬老会を行う。職員の余興等で盛り上がり、賑やかに祝いができました。(全員参加)
9.20	外食ドライブ	ミニデイ利用者が道の駅に出掛けてきました。昼食はレストランで自分の好きな物を注文するなど、嬉しそうに箸が進んでいました。食後は、売店でパンやお菓子をお土産に買っていました。 (霊山の道の駅 13名)
10.28	村文化展へ 作品出品	日頃、リハビリを兼ねて物づくりをしている方の作品を出展。見事に「村老人会長賞」受賞。表彰式にも出席してきました。 (飯館中学校 8名)
10.29	までのりの里のこども園との交流	園児が、ハロウィンに合わせ利用者との交流を図る。園児のダンスを見ながら涙ぐむ方や、嬉しそうに一緒に手を動かしたり、とても楽しんでいました。 (西棟ホール 全員参加)
11.3	芋煮会・ミニ運動会	利用者のご家族、職員の交流会を目的に実施。玉入れやパンくい競争などでご家族共々と軽く汗を流した後、はらこ飯や、おでん、各種フライ等を食べながら、カラオケ等で楽しく交流を図りました。 (東棟ホール 全員参加)
12.23	クリスマス会	毎年ですが日赤奉仕団からクリスマスケーキのプレゼントがありました。また、利用者のハンドベルや職員の余興でクリスマス会を盛り上げ、会食も、ちらし寿司とフライドチキンを食べ楽しみました。 (西棟ホール 全員参加)
12.28	餅つき	年末恒例の餅つき。6升の餅米を臼と杵や、千本杵でつきました。つきあがった餅は、お正月のお供え餅と、昼食に餡子やじゅうねん、納豆、汁餅等にし美味しく頂きました。(西棟ホール 全員参加)
1.4	百歳賀寿祝 新年会	今年は、百歳賀寿祝と一緒に年の初顔合会を開催。お祝い膳を囲みながら職員の余興「大黒舞」「花笠音頭」や個々のカラオケで盛り上がり、初笑いもありました。 (西棟ホール 全員参加)
1.10	団子さし	今年は、ミニデイサービス利用者が、団子さしの準備をしました。 昔の風習を思い出したかのように慣れた手つきで色とりどりの団子を丸め、昨年の倍の量の団子さしができ上がり、各玄関やホール、ユニット内に飾りました。 (東棟ゆとりの家 15名参加)
2.3	豆まき	今年も、年女年男(利用者4名、職員2名)が、節分の日に豆まきをしました。 各ユニットを回り、利用者と一緒に大きな声で豆をまいたり、ベッドで休まれている方には、そっと2～3粒の豆をまき鬼を払いました。 (西棟ホール 全員参加)
2.10	お風呂の日	施設内の一般浴を銭湯にみたく、「お風呂の日」を開催しました。 午前と午後に分け実施。大きなお風呂に満足する笑顔がみられました。入浴後は、「こあがり」にて、ビールや甘酒、おでんやフキの炒めもので一息ついていました。(東棟ゆとりの家 15名参加)

3.3	ひなまつり	食事会を兼ねて、桃の節句のお祝いをしました。今年は板前経験者（厨房職員）が、目の前で寿司を握って出していただきました。普段お粥食のかたでも幸せそうに生寿司を頼っていました。 （西棟ホール 全員参加）	
毎週日曜日	手作りおやつで喫茶タイム	毎週木曜日	音楽療法
月1回（月末）	避難訓練を実施		

3. 一年を振り返って

昨年の反省から“職員の高齢化を理由にしない。”取り組みをしてきました。

利用者がケアを必要としていれば、今できることを何らかの工夫をしながら対応をしてきました。

しかし、今年度は、職員の体調不良や病休者が続きました。やはり、新しい入居者を迎え、満床時に職員の病休が増えることとなると不安は大きなものでした。

また、今年度も百歳賀寿を迎えお祝いすることが出来ました。当施設では、百歳以上が3人、99歳が2人、98歳が5人と超高齢化となっています。百歳はあたりまえの時代に到来していることを感じながら、介護者も同様に高齢化して行くなか、それでも、今できる介護を、決して手を抜かず、あたりまえの精神で「笑顔で」提供していきたいと思っています。

そのためには、職員一人ひとりが自己管理と、安全な介助方法を考慮し二人対応を多用し、今出来るケアを精一杯、利用者に提供できるよう取り組んでいきたいと思ひます。

1. 生活全般について

「コミュニケーションの機会を多く取り、皆さんが笑顔で穏やかに過ごせるよう支援する」を目標にして皆さんと一緒に過ごしてきました。

また、職員の異動もあったことから、信頼関係を築く事に重点をおきました。

不穏な方、精神面のフォローが必要な方、居室で過ごされている方等、本当に「声掛け」には色々あり、「この方にはどの様に声掛けしたらよいのか」「今、声を掛けお話をしたけど…」退室後に大丈夫だったかなと心配し、他の職員に相談したりしました。

周りを見て気にされる方、マイペースで過ごされる方、発語は難しいけど顔の表情や態度で教えてくれる方等、本当に自分の意思表示が様々でした。

9月と12月には、2人の方をお見送りしました。1人の方は時々体調を崩すこともありましたが、最後までしっかりとお話を聞いていました。もう1人の方は、意思表示がしっかりとしている方で、食べることが本当に好きで最後まで食べることが出来たので良かったと思います。

新たに1人の方が入居されました。静かな方でお話をよく聞いてくれています。この方が入居された事により、ひだまりの家の雰囲気も変わり、家内の会話が増えました。

ひだまりの家では103歳、101歳と高齢な方々がおり、急な体調不良変化には十分気配りをしています。また、他の方にも同様、「身体の変化」や「昨日はできたのに今日は出来ない」、「排泄の変化」等を見逃すことが無いように努めてきました。今後も「気づき」を重視した見逃さないケアに努めたいと思います。

日々「今日もいっぱいお話したかな」「いっぱい笑ったかな」「楽しかったかな」「明日は何をしようかな」と利用者と一緒に心に残るような暮らしが出来るよう支援していきたいと思えます。

2. 食事、排せつ、入浴について

① 食事について

- ユニットの畑で野菜を栽培しており、一緒に野菜を収穫したり、下ごしらえをする事が出来ました。自分達で料理を沢山作ることが出来たことも良かったと思います。
- 食事の摂取が難しい方もおり、「食べたい」「食べさせたい」でも「食べられない」に応えようと多職種の方々とその都度相談する事により、最後まで食べる事が出来ました。「食べる」事の難しさや大切さを沢山教えて頂きました。
- 「パ・タ・カ・ラ」カードを作った事により皆さん興味を持って頂いたようです。大きな声を出すことは難しいようですが、自分に合った声量で参加されていました。

② 排泄について

- 排泄時のプライバシーを守ることは、職員が声の大きさに気を付け、他の利用者にも聞こえないように対応する事が出来ました。
- 排泄量や状況に合わせたパットを試行しながら、検討対応することが出来ました。このことから皮膚トラブルを防ぐことができ良かったと思います。

③ 入浴について

- 北棟機械浴で入浴されていた方が座位保持が可能となり、個浴に変更できた方もいまし

た。個浴では、湯船の中でゆったりとされているのを見ると変更してよかったと感じました。

- 入浴拒否の方の入浴方法について年間通し検討してきました。結果、本人が午後から眠くなる時間を避け、時間を調整し入浴を勧めることで、機嫌を損なわず入浴される事ができました。
- 入浴後の着衣・身だしなみ等を自力でできる方には、ゆったりとした時間の中で整えて頂くことができました。
- 看とりの時期を迎えられた方も、その日の状態や体調に合わせた入浴方法で、他のユニットの職員や看護師の協力を得て最期まで入浴することができ、綺麗な身体で見送ることができました。
- 今後、個々にあった入浴剤やボディソープを使用し、また、浴室も季節にあった飾り付けをして入浴中も楽しめる工夫をしたいと考えています。

3. 家内のユニットの取り組みについて

4月に皆さんがゆったりと過ごせるよう、ソファーやマッサージ機を除く等フロアの模様替えをしたことにより炬燵の周りがゆったりとして、テレビを観ながらお話をしたりお茶を楽しまれ、昔懐かしい「井戸端会議」化となり、お話しに華が咲く時もありました。

また、雰囲気が変わったことで、声掛けに反応も見られ、「おはよう」との声掛けに「おはよう」と返事が返って来た時は嬉しいという気持ちになり、その日一日とても充実したケアを行う事が出来ました。

やはり、嬉しい・楽しいと云う気持ちは、知らず知らずのうちに人を向上させる妙薬なのかなと思いました。

朝のラジオ体操や夕方の体操は、徐々に皆さんが行うようになっていきます。ただ、耳が遠いので音が聞こえなかったり、体操を忘れていたりするので、職員と一緒にするようにしています。

また、レクリエーション参加にも変化が見られ、職員の声掛けに現在は元気な4人が参加されるようになりました。

季節のドライブは、ユニット単独では難しことから、西棟の皆さんや全体でのドライブに参加させて頂きました。次年度は、どのように工夫すればユニット内でのドライブや外食、買い物ができるか検討し、今より要求に応える事ができるのではないかと考えています。

ホームの行事については、皆さんの体調を整え、どの行事にも全員参加することが出来ました。特に夏まつりでは外に出られない方でも、室内から夏まつりの様子を見えるように配慮して頂いたため、ゆったりと室内から楽しむことができたと思います。

これからも、「良質の統一したケア」に努め、その日の精神面や体調に合わせたケアをしていきたいと思っています。

1. 生活全般について

4月より新体制での介護スタッフ4名と利用者6名で「ぬくもりの家」をスタートしました。9月に1人の方を見送りしました。いつもの席に姿がなくなりとても寂しく思いました。

それから1か月後、新しい方が入居されました。同じ地区出身で顔なじみの方がいると云うことから、顔見合わせしたところ、「誰だっけなあ・・・」等、会話にならずでしたが、数か月経った頃にはお互い顔見て“ニッコリ笑顔で話されるようになりました。

私たちスタッフも、新しく入居された方の生活状況を把握するまで時間がかかったように思います。特に、排泄の状態を把握し、しっかり対応できるようになるまで数か月の時間を要しましたが、今では日常生活のパターンも把握でき日々の生活を問題なく送って頂いています。

スタッフ一人ひとりが真剣に向き合い、個々の生活に寄り添いながら、今一番必要としているケアは何かをスタッフ間で意見を交換し、試行錯誤しながらケアに取り組んできました。また、後半にはケアプランに沿って、ちょっとした変化に気づき、一つひとつのケアを再確認しながら取り組むことが出来たと思います。

2. 食事・排泄・入浴について

① 食事について

- 日々のケアの中で、「最近、むせが多いが」、「前より飲み込みが悪くなったが」等、ケア会議等で議題として取り上げ、どのようにしたら美味しく食事を摂って頂けるのか、栄養士や看護師の協力を得て、食事内容の検討やテーブルの高さ調整、車椅子を替えてみる等の工夫をすることで、落ち着いて楽しく摂取することができたと思います。

例)

ある方は、残存機能を活かして食事を摂って頂けるよう、自助具を使い一部介助で様子を見てきました。内出血ができ易いこと、以前よりも思うように自分で食事を口まで運ぶことが困難になってきたこともあり、一部介助から全介助へ変更したところ、皮下出血になる頻度も少なくなって皮下出血の原因を減らすことができた。また、全介助で食事を食べるようになり、自分で食べるという意欲がなくなってしまい、食事中にむせたりすることが多くなりました。できるだけ声掛けをしたりコミュニケーションを図り、食前体操などを積極的に取り入れながら、楽しい雰囲気ですべて食事を摂って頂けるようにしました。

食事の楽しみを忘れないよう、月に1度、ご家族の方の面会時、好物の刺身などを食べて頂くようになりました。色々な意味で本人も楽しみにしているようです。

また、ある方は、夜間帯しっかり休まれていても起床時間に目覚めることが出来ず、食事を食べないことが多くなりました。そこで、遅く起きた日には軽めの食事などを提供、目覚めが良い時にはしっかり食べてもらうようにしたところ、今が一番落ち着き良い環境ではないのかと思っています。

ある方は、目が覚めている時間より、居室で休んでいる時間の方が多くなりました。欠食の回数が増えて思うように食べることが出来なくなってしまいました。その後、朝は栄養補助食品を摂って頂き、昼・夕は食事をしっかり摂って頂くようにしました。始めの頃はなかなか思うように摂って頂けませんでしたでしたが、数か月経ったところには、以前のように摂って頂

けるようになりました。

今後も本人の体調に合わせて対応していきたいと思います

② 排泄について

- 排泄に関しては季節や時間帯によって尿量に違いがあるため、オムツやパットの見直しを随時行ってきました。また、排泄チェック表等を活用し、また、排便状態を把握しながら、看護師ともアドバイスを受けながら、下剤等の見直しも行いました。新しく入居された方の排泄パターンは、排泄チェックとのにらめっこが暫く続きました。

また、簡単で見やすいチェック表が出来るかスタッフ全員で意見交換しながら、新しい記入方法を取り入れたりと、真剣に取り組むことが出来ました。

夜間時のトイレ対応についても負担にならないよう見直しを行ってきました。

③ 入浴について

入浴に関しては、個々の状態に合わせた入浴方法の見直しを行いながら、お互いに安全に入浴できるよう随時対応して行きたいと思います。

3. 家内のユニットの取り組み、行事の取り組みについて

スタッフ一人ひとりが真剣に向き合いながら、日々のケアを行ってきました。特別なことではなく、日々の生活の中で疑問に感じたことやケア会議の場で意見を出し合い、より良いケアが提供できるよう1年間皆で一生懸命一人ひとりのケアに取り組むことが出来たのではないかと思います。

また、レクリエーションや季節の行事にも積極的に参加し、皆で一緒に楽しむことができたのではないかと思います。今後、利用者の特別な日に外出できるようにしたいと考えています。

1. 生活全般について

日々、「今・何をしたいのか」を考えながら、大声を出されている方、何も言わずにただ待っている方、居室で過ごされている方のニーズを、どのように汲み取っていくかを悩んだ一年でした。このことから、始めはコミュニケーションから取り組みました。

4月の異動により男性職員が入ったことで、優しさと異性を感じ取ったのか、良い笑顔も見られ、コミュニケーションもとれ、心身共に安心して生活できるような体制作りが出来てきたと思います。

このように良い雰囲気の中で、4月中旬、突然座位保持できず右手の脱力感もあり通院、脳幹部の梗塞にて入院となってしまった方がいました。5月に経管栄養状態で退院でき、こちらの声掛けに、うなずきや手の動きがあり、意思疎通ができることに私たちも希望を持つことができました。また、他の方と変わらないよう、毎日の生活が孤立せず充実できるよう職員間で統一したケアに努めました。

10月に新たな職員が加わったことで、利用者の雰囲気や対応も良い方向へ変化し、私たちも、初心を思わされることが多々ありました。一人ひとりの職員が常に様々な方向から利用者の変化に気づき、話し合いを重ね試行錯誤し提供したことで、体調も安定し、職員も今が一番楽しい時間を送れているのではないかと感じています。

今後、重度化していく方の性格等を尊重し、食事・居室・フロアの環境作りと雰囲気作りに留意し体調の変化を見逃さないようにケアしていきたいと思います。

2. 食事・排泄・入浴について

1) 食事

個々の状態にあった食事形態を随時見直し、食への意欲を持って頂くよう、盛り付けの工夫や見た目、匂いなどで楽しみを持って頂くよう努めてきました。また、経管栄養だけに拘らず、口から食べることの大切さを念頭に置き、本人の意思に沿った食事が提供できるよう看護師や栄養士と相談し、本人が満足されるよう努めてきました。

また、どうして食事変更になってしまったのかを見て頂くため、カロリーやBMI・塩分・禁食等を把握し、しっかりと栄養が取れるよう厨房と連携していきたいと思います。

パタカラ体操や口腔マッサージを毎回行うことができませんでしたが、一人でも対応したいと寄り添って行うことは出来ました。

食環境として、気分よく食べられるような席を設け、ストレスとならないよう対応してきました。また、四季折々の行事食に「美味しかったよ」と笑顔で言われると「満足することができたんだな」と私たちも笑顔で応えることができました。

2) 排泄

羞恥心に気配り・声掛けや言葉遣いに注意し、ベッドやトイレでの介助では看護師と連携し、快居・快便ができるよう支援してきました。

下肢を骨折したことのある方の排泄の訴え時には、以前と変わらないよう快便して頂くとうとトイレ介助を行い、足の置き場に配慮し3人対応で安楽な状態を作り、快便できるよう他の職員と協力し努めてきました。本人も「なんぼでだ」等と気にされるので見て頂くと「あ

一、でだな」と言われ満足されると、私たちも「あ～よかった」と笑顔になってしまいます。

排泄交換しても尿臭がきつく、対策としてホルダーパンツの使用や消臭スプレーの使用等で対応し緩和に努めました。排便時等の交換後はさらに臭いがきつく空気清浄機で対応し、衣類やリネン交換時は、寝具やクッション等も毎回洗い消臭緩和に努めました。また、ベッド上で過ごす方が殆どであることからベッド周りやトイレ内の環境の衛生面に十分配慮してきました。

個々に合った尿量のパットの選択と、随時、見直しに努めることで皮膚トラブルもなく過ごしてきました。また、水分量の決まっている方の排便コントロールには看護師と相談し、下剤服用時のみにお茶の量を多くし、後日、快便して頂くよう努めてきた結果、「すっきりした」と言われると私たちも良かったと思いました。

3) 入浴

身体に負担とならないよう、随時、介助方法や形態を見直し、安全・安楽に入浴できるよう努めてきました。また、職員の負担や業務改善の見直の一環として、他ユニットとの協力を得、スムーズに入浴できる体制づくりに取り組むことができました。

入浴前後のプライバシーに配慮することで、リラックスに繋がり、家での入浴のような環境づくりや、四季折々の入浴の日を設けて頂いたことで、季節を感じとれ楽しく入浴することができたことと思います。

また、個々に合わせたシャンプー・ボディーソープ・入浴剤・保湿クリームを使用することで肌トラブルを未然に防ぐことができました。

今後、個浴で入浴するときにも音楽を流すなど、ゆったりとリラックスして入浴できるような環境づくりを検討していきたいと思えます。

3. 家内のユニットの取り組みについて

寝たきりにならないよう、その日の体調を見ながらレクリエーションや余暇の過ごし方を考え、離床し身体を動かすケアをしてきました。また、その時々体調・精神面に配慮した離床・声掛けなど、その場に居合わせた対応方法についても職員間で認識を統一し、周知に努めてきました。

安楽な時間を過ごせるようポジショニングの取り組みについても、試行錯誤しながら個々にあったポジショニングを提供してきました。

日常生活での支援や介助は勿論のことですが、やはり「メンタルケア」が重要なポイントになると思います。ベッド上での介助や2人対応での移乗、経管者の対応が多く職員間の協力や雰囲気大切であり、再度、職員間での言葉遣いや感謝の気持ちをもって情報の共有を行い、一人ひとりがお互いにしっかり話しをすることが大切なことだと思います。このことが、利用者にとって心身共に安心して楽しく生活ができる「やすらぎの家」になると考えています。

然しながら、其々の個性が強く、職員も対応が間に合わず、次の業務が待っている等、一人ひとりに寄り添うことがあまりできずに終わってしまった。と云う思いで一日が終わりジレンマとの戦いの毎日です。

1. 生活全般について

今年度の目標は、「“その人らしさ”が十分に発揮できる家作りと、穏やかに過ごせる雰囲気作りに努める。」を掲げ共に生活を送って来ました。

・ 朝のラジオ体操から始まり、レクリエーション、食前体操（昼・夕）、と心身の機能維持に努

めてきました。

- ・ ベッド上での生活が多くなる方に対しては、居室で音楽を聴いて頂いたり、食事の時には、出来るだけフロアに出向いて頂くよう、他の方と交流を持てるようにし、孤独とならない環境作りにも気を配りました。
- ・ 足の血行不良や浮腫みのある方には、足浴やメドマーを施行、悪化防止に努めました。
- ・ 3月に新たに入居された方がいました。ご主人様もこまめに来られ、入居前の生活の様子を伺うことで、少しでも入居前の生活感のある話題や音楽提供等で、孤独感にとらわれないように努め、また、会話する事で次第に信頼関係も築くことが出来ました。
- ・ 11月にも入居された方がいました。食事摂取量にむらがあるとの申し送りがあり、入居されましたが、職員の声掛けと、大好きな息子さんとお孫さんのお話をする事で穏やかになり、徐々に信頼関係も築く事が出来たと思います。暫くすると自然に食事量と会話も増え、笑顔も見られるようになり身体機能も向上してきました。
- ・ 数名の方は、水分制限、排尿障害、顔や足に浮腫が見られる方がおり、毎週月曜日に体重測定を行い状態変化の把握に努めてきました。
- ・ 今年からのミニデイサービスには、家から4名の方が参加したことで、出来なかった手作業が、少しでも食事の下準備に携わる事が出来、機能維持と五感が刺激され食欲の増進にも繋がっていきました。これからも出来る所を大切にしていきたいと思えます。
- ・ ホーム全体の行事「外食ドライブ、七夕会、納涼祭、敬老会、ミニ運動会&芋煮会、クリスマス会、餅つき会、新年会、団子さし、節分（豆まき）、ひな祭り、ミニデイ」や、村の敬老会の千昌夫コンサートに参加し、その都度、皆様の笑顔と目の輝きが沢山見る事が出来ました。

2. 食事、排泄、入浴について

1) 食事について

- ① 口から食べる事と咀嚼の大切さを念頭に置き、個々の状態に合わせ、看護師、栄養士との連携の下、食事形態の変更や栄養補助食品の併用を提供し、体調管理に努めてきた。
- ② 食前体操で、口から美味しく食べられる環境作りに努めて来ました。
- ③ ソフト食が滑るため食べづらい方には、トロミを付けて食べて頂くことで、こぼしが減りました。
- ④ 姿勢が安定しない時は、車椅子をその方に合った物を用い、U字クッションで姿勢保持をしました。また、腕の強張りがあり、手の可動域が狭い状態の方には、少しでも自力で食べて頂きたく、スプーンで口まで運ぶ距離を短くする為の台を設けることで、自力で食べられるようになりました。

2) 排泄について

- ① 尿カテーテル対応の方のバックの消臭対策として、毎日、カバーを洗濯しこまめに消臭剤を利用したところ消臭軽減に繋がりました。
- ② 個々の尿量に合ったパットを、随時、見直し提供してきました。
- ③ 皆さんご高齢ではありますが、トイレでの排泄を大事にし、また、排泄交換時は洗浄し、個々に合わせた軟膏（ワセリン・アズノール）を塗布、皮膚の保護に努めてきました。
- ④ 新しく入居された方に於いては、排便コントロール、下剤のコントロールが難しかったものの、看護師の協力によりコントロールができるようになりました。

3) 入浴について

- ① 高齢化・重度化により皮膚も弱く、入浴での内出血が見られることもありました。その都度、個々の状態と出来易い場所を周知し、安全で快適な入浴が出来るよう、職員間で共有してきました。
- ② スキンケア対策として、個々に合ったボディーソープ、入浴剤、ローション等を使用して頂いたところ、肌に潤いが保てました。

3. 家内のユニットの取り組みについて

- ① 1月に百歳賀寿のお祝いことができました。お祝いの方については、各部署も含め全職員で千羽鶴を折り、職員一丸となり様々な準備に取り組み、盛大に賀寿祝いが出来ました。携わった者として感慨深く遣り甲斐にも繋がりました。
- ② せせらぎの家では、皆さんご高齢ではありますが、外食ドライブ等に出掛け気分転換になったようでした。
- ③ ポジショニングに重点を置かなければならない方に、家族の方が買って来てくれた体交クッションを、家族の了解も得、そのクッションを滑らないようにリメイクし、臥床時のポジショニングに使えるようにしました。このことから、ポジショニングでのクッションの使用のマニュアルを作成し職員に周知出来ました。
- ④ 自分らしく気兼ねなく過ごせる雰囲気作りをするために、一人ひとりの行動、性格を理解し温かく見守る努力をしてきました。
- ⑤ 車椅子、靴、座布団を定期的に洗い、清潔な環境の中で過ごして頂ける取り組みをしてきました。
- ⑥ 家会議では、皆で意見を出し合い色々な視点から最善のケアを模索し、試行錯誤により、ケアに繋げることで大きな事故もなく過ごせたと思います。
- ⑦ 今後も、重度化は避けることは出来ないと思いますが、家職員、多職間との連携をしながら、体調管理に努め、安心して和やかに過ごして頂ける環境作りをしていきたいと思っております。

1. 生活全般について

「日々の生活が本人らしく、生き生きと過ごせる様に支援し、身体機能の低下や認知症の進行予防に努める。また、笑顔が輝けるようなケアを行っていく。」を目標にして、一年間生活を共にしてきました。

中にはベッド上で過ごされる方もいましたが、レクリエーション時には全員一緒に参加することができました。また、体調を崩したり、入院される方もいましたが、退院後のケアも職員間で意見を出し合い本人らしく生活して頂けるように心掛けてきました。

皆さんとても個性豊かでしたが、職員もそれ以上に個性豊かで、毎日、明るく笑いの絶えない「だんらんの家」になっていたように感じました。

また、お話好きな方が多いのでコミュニケーションをしっかりとることで、自然に利用者同士が思い思い楽しそうにお話をされている場面が多々見られ良かったです。今後も、利用者に寄り添い、一人一人の個性を尊重しながらその方らしく生き生きと生活していただけるようにケアに努めたいと思います。

2. 食事、排泄、入浴について

① 食事について

個々の状態に合わせ食事内容の検討を、看護師や栄養士と話し合い、「どうしたら、食べられるか、何なら食べるのか」と試行錯誤しながら、食材選びや盛り付け、提供の方法等を工夫したり、考えて行ってきました。

7名中6名はゼリー食、ソフト食、軟食と様々な形態で提供し口から摂取されており、食した時に「美味しい」と笑顔で言ってくれる姿を見ると、職員も自然と笑顔で楽しい食事の時間になっているような気がします。

今後も美味しいものは美味しく、食事の時間は楽しく、笑顔の絶えない時間になるようにして行きたいと思います。

また、食前体操、口腔ケア、マッサージ等もしっかりと行い、唾液分泌を促し、常に清潔な口腔内環境を整えて来たことで、むせりや誤嚥の予防にも努めることができたと思います。

② 排泄について

前年度から尿臭の軽減を課題として今年度も取り組んできました。初めはなかなか効果がでず、主任、看護師、介護員で意見を出し合い試行錯誤する中で消臭スプレー（銀イオン）や洗浄、交換回数増、使用パット等について検討してきました。

結果、個々の詳細な排泄パターンを把握し、様々な方法を取り入れたことで、現在では、殆ど尿臭等が気にならなくなり、快適に過ごして頂くことができています。今後も現状維持して行けるよう努めて行きたいと思います。

また、個々の排泄パターンや交換時間を把握し本人に合ったパットを選定することで皮膚トラブルを予防することができました。皮膚が弱く尿臭もする方には、こまめに交換を行うことで、尿臭軽減や皮膚トラブルの軽減に繋がっていると思います。

排便のコントロールも一人ひとりに合った間隔を考え、トイレでの排便をスムーズに促す

ことができました。

今後も、トイレで排泄することの大切さを確認し、負担の少ない無理のない範囲で行っていただけると幸いです。

③ 入浴について

新しく入居された方に関しては、その都度話し合いを行い、その方に合った方法を取り入れることで、安全・安心して入浴して頂けたと思います。

だんらんの家の方は、入浴が好きな方が多いため、音楽を流したり、浴槽にゆずや菖蒲等を入れ、季節を味わって頂く工夫をしてきたことから、ゆったり、楽しく入浴して頂けたのではないかと思います。

「気持ち良かった。温まった」との言葉と笑顔が見れたときは、職員も嬉しい気持ちになりました。

また、個々の皮膚状態に合わせ、シャンプーを変えたり、保湿クリームを使用したり、皮膚トラブルの予防も併せてしてきました。

今後も、状態に合わせた入浴方法、時間に追われることのない介助に心掛け、最高の入浴時間を提供できるようにしていきたいと思います。

3. 家内のユニットの取り組みについて

年度当初は、数名の方に昼夜問わずセンサーマットを使用していましたが、生活パターンや状態を把握することで、センサーマットの使用時間を少しずつ減らし、最終的には全員外すことができました。今後もこまめな見守りを忘れず、必要な時に必要なケアを提供し安全に過ごして頂けるようにしていきたいと思います。

また、居室で休まれている方が多くいるため、全員揃って何かをすることが少ないなか、レクへの積極的な参加、ティータイムを一緒にする、夕方の時間に一緒に貼り絵の作品作りに努めてきました。その結果、今まで以上にコミュニケーションを取れるようになり、会話も弾み穏やかに過ごして頂けています。眠そうな時には無理に離床せず、その人に合わせた生活パターンを見ながらの対応を心掛けてきました。

フロア的环境や設えについては、テーブル配置を変えたことで、新鮮になり利用者同士、笑顔で話をすることが増えたように感じました。また、冬場は乾燥を防ぐためタオルを濡らして干したり、観葉植物に霧吹きをしたりして湿度を保つように努め、感染予防にも努めてきました。

これからも個々の生活を大切に、笑顔溢れる楽しい家、利用者も職員もここで良かったなと思えるようなケアを心掛け、悔いのないよう最期まで過ごして頂けるようにしていきたいと考えています。

1. 生活全般について

「表情や動きから（今日は何となく…、いつもと違うな…）と一人ひとりを感じ、安心、安楽に暮らして行けるよう心掛ける」を目標に、申し送りの徹底や多職間の協力を得、様々な計画を立て一年間取り組んで来ました。

年々、重度化や体調の変化に伴い、ベッド上での生活を余儀なくされている方が多くなっているものの、孤独感を感じさせないように、今何をして欲しいのかを自分なりに考え、目で見ても耳を傾け、足を運び、肌に触れながら共に生活を送ってきました。

新しいご利用者も増えた中、5月には、お花や動物が大好きだった方、12月には家族の協力により長年暮らした家に戻り、親しかった方々と会う事が出来、最期は家族の看取りで旅立ちました。更に1月には、食べる事が好きな方と相次いでお別れをしました。

その度、ご家族の方から、温かい言葉を掛けて頂き「これで良かったんだよな」と思う場面でした。

常にその人らしい暮らしとは何かを考え、職員間で互いの意見を交わし行動に移す。家族面会時には必ず現状を伝え、家族の繋がりや信頼関係を築けるよう取り組んでもきました。

言葉遣いでは「飯舘弁が強すぎる」と云うことから、今後も注意していきたいと思えます。

2. 生活面について

1) 食事

- ① 個々にあった食事内容の提供について、口腔内状況により咀嚼が難しい方に対しては良い結果が得られなかったと感じました。常に「どうしたら美味しく食べられるのか」を多職間で意見を出し合いながら提供出来ればと考えています。
- ② ホーム全体のレクの「あいうべ」、体操、食前のパタカラ体操等を行う事で唾液促進や、個々に合った口腔用品を使う事で口腔内機能が維持出来ていたと思えます。
- ③ 食欲促進に繋がるよう、目の前での配膳や、メニューに合った食器選びを工夫することで、食後でもゆったりとした時間の中で楽しい会話を持つことが出来ました。
- ④ 食事を安心、安全に楽しめるよう個々に合ったテーブルの高さや体位に注意してきました。

常食の方が少なかったため殆ど家料理を行う事が出来なかったため、今後メニューを検討し実施して行きたい。

2) 排泄

- ① 排泄チェック表を活用し個々に合ったパット選定や排泄交換が上手く出来ました。また、自然排便に繋がられるよう、食品の繊維の服用や腹部マッサージ等を行うも良い結果は得られず、下剤での調整を行ってきました。職員一人ひとりが昨日飲んだけど「出なかったわ～」ではなく、「出してあげたい」の気持ち「今回これで出なかったんだから、次回同じでいいんだろうか」と考え取り組めたらと思えます。
- ② 介助を担当する職員は、排泄物や臀部状態の変化を速やかに報告する事により上手く対処する事が出来たと思えます。また、拘縮が強い方の排泄交換については2人対応で行うことで、負担になることなく、不衛生にもならぬよう行えました。

③ 居室やフロアの消臭対策に心掛け、努めてきたことから衛生面でも出来ていたと思います。

3) 入浴

① 個々に合った入浴形態、本人が望んでいる入浴に心掛け「今日のお風呂も良かったな～」と喜んで頂けるよう他の家職員の協力を得ながら柔軟に対応できました。

② 入浴中でも孤独感を感じないような言葉掛けや音楽を用い、ゆったりとした時間を設けました。

③ 「寒いから入らない」等のないよう、浴槽内やお湯の温度に注意してきました。また、皮膚の乾燥予防としては入浴剤や保湿クリームを用い皮膚トラブル防止に努める事が出来たものの、トラブル時には速やかに看護師に報告、対処することができました。

④ 入浴の際も季節が感じられるよう、菖蒲湯、リンゴ湯、ゆず湯など目で鼻で楽しんで頂ける工夫も重ねてきました。

3. 家内ユニット取り組みについて

こもれびの家では、個々の生活スタイルを大切に、気持ち良く目が覚め、気分も良いなと思って頂けるような起床介助や、食事以外でも居場所作りを設え、フロアの整理整頓にも職員一人ひとりが努めてきました。

居場所作りを重視し、食事の場、くつろぐ場を変え生活にメリハリをつけ、耳から入る音楽で穏やかな気持ちになり、植物を通して季節を感じて頂くよう心掛けてきました。

また、午前中のレクへの積極的参加、季節毎の行事やドライブ、月2回開催されるミニデイへの参加で、リフレッシュや他の家の方とのコミュニケーションを図ることに努めてきました。

家料理については、活動的な方が多い中で、なかなか予定を組む事が出来ませんでした。次年度は、美味しい作り方を学びながら楽しい時間が持てたらと思います。

最近“ユニットケアとは何か”を改めて考えさせられる時がありますが、初心に戻りどのような暮らしを求めているかを当人や家族の方を含め取り組めたらと思っています。